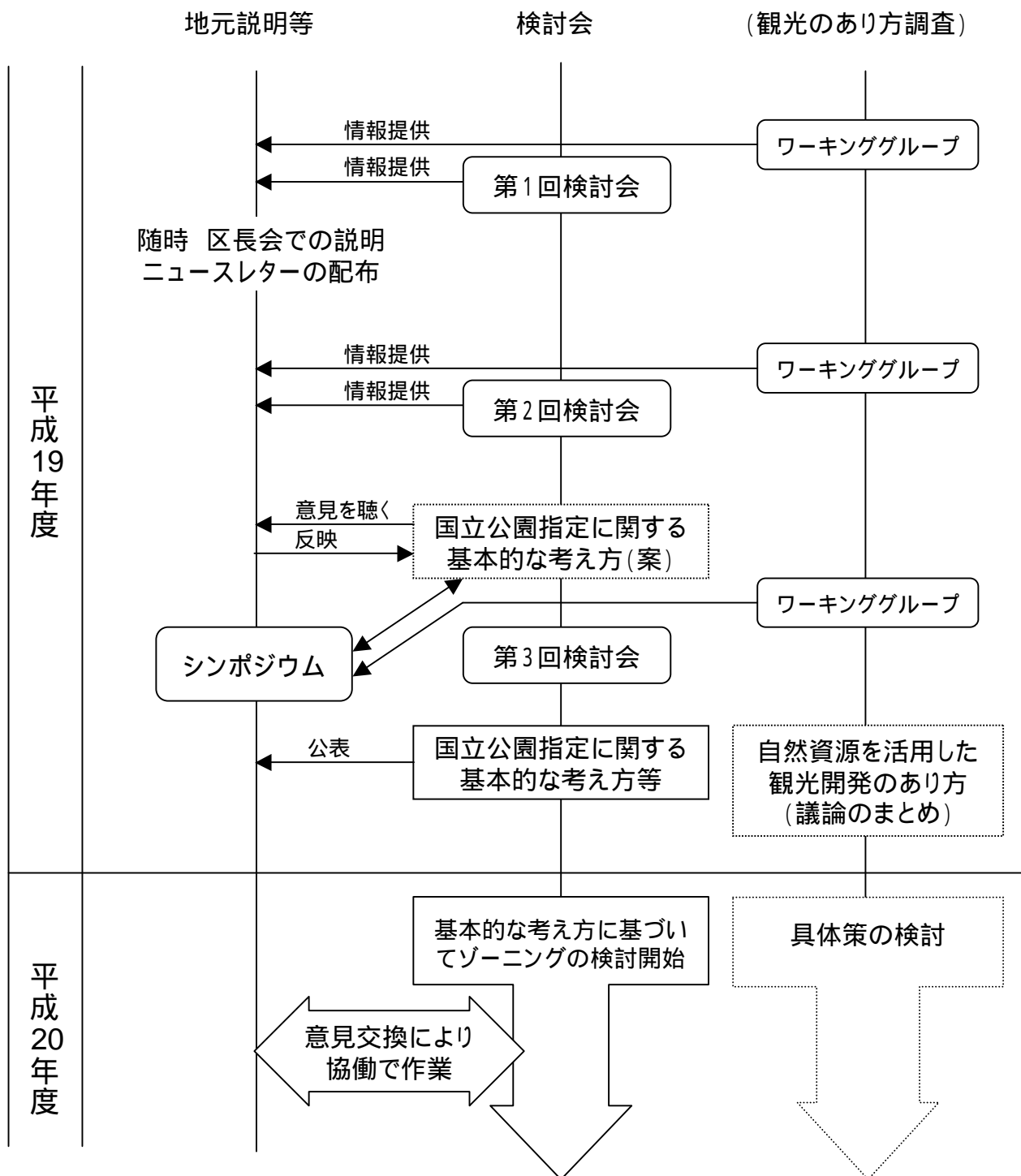


やんばる地域の国立公園に関する検討のスケジュール



(参考)

平成 19 年度やんばる地域の自然資源を活用した観光のあり方検討調査

1. 調査の目的

やんばる地域が国立公園に指定され、かつ、世界自然遺産に登録されることにより観光客が増加することを想定し、自然資源を活用した観光のあり方を検討する。

なお、調査においては、自然資源を活かした地域の持続的発展を目指して、当該地域を担う住民の方々が明確な地域の将来像を描き、その実現に向けた取組や行動を選択していく上で必要となる客観的な情報の収集も目指す。

2. 調査の実施対象地域

やんばる地域(国頭村、大宜味村、東村)を対象として調査を実施するが、主要な調査は国頭村をモデルとして実施する。

3. 調査検討項目

(1) 観光を含む地域社会の経済フローの将来像の検討

現在の当該地域の観光動態を把握した上で、今後、自然資源を持続可能な方法で活用した観光を推進していくにあたって、基本的な考え方を整理する。

また、地域で受け入れることが可能な観光客数(宿泊及び日帰り)及びそれによる経済効果も可能な限り試算する。

(2) やんばる地域の自然資源を活用した観光開発のあり方の検討

現在の当該地域の経済フローを可能な限り把握した上で、それに今後予測される社会除す英の変化及び(1)の観光開発による経済効果等を加え、地域の理想的な経済フローの将来像を描く。その際、概ね30年後の姿を導き出すものとし、そこに至るまでの障壁等も抽出する。

(3) 利用圧に対する脆弱性の明確化及び利用ルールの必要性の検討

やんばる地域の観光塔の利用圧に対する脆弱性を、土壌や植生などの自然条件や動植物の盗掘・盗採の可能性等の社会条件の側面から明確にする。また、それらを踏まえた利用ルールの必要性等についても検討を行う。

(4) 必要な利用施設の種類と配置に関する基本的な考え方の整理及びモデル案の提示

自然資源を活用した持続可能な観光を推進する上で必要となる利用施設の種類と配置に関する基本的な考え方を整理し、モデル案を提示する。なお、その際には、環境省等の公的機関が整備するもののみでなく、民間資本による整備が望まれるものについても視野に入れて検討する。